

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2012-101099
(P2012-101099A)

(43) 公開日 平成24年5月31日 (2012.5.31)

(51) Int.Cl.

F I

テーマコード (参考)

A 6 1 B 17/06 (2006.01)

A 6 1 B 17/06 3 1 0

4 C 1 6 0

A 6 1 B 17/56 (2006.01)

A 6 1 B 17/56

審査請求 有 請求項の数 1 〇 L (全 21 頁)

(21) 出願番号	特願2011-285880 (P2011-285880)	(71) 出願人	503036298 オルソペディック バイオシステムズ リ ミテッド インコーポレーテッド アメリカ合衆国、テネシー 38116、 メンフィス、ブルクス ロード 1450
(22) 出願日	平成23年12月27日 (2011.12.27)	(74) 代理人	100065248 弁理士 野河 信太郎
(62) 分割の表示	特願2001-575914 (P2001-575914) の分割	(72) 発明者	スキーバ, ジェフリー, ピー. アメリカ合衆国、アリゾナ 85044、 フェニックス、イー. シスル ランディン グ ドライブ 4614
原出願日	平成13年4月18日 (2001.4.18)	(72) 発明者	ボールドウィン, ジェフリー, ピー. アメリカ合衆国、アリゾナ 85027、 フェニックス、ダブリュー. ヴィア モン トヤ ドライブ 3420
(31) 優先権主張番号	09/550, 975		
(32) 優先日	平成12年4月18日 (2000.4.18)		
(33) 優先権主張国	米国 (US)		

最終頁に続く

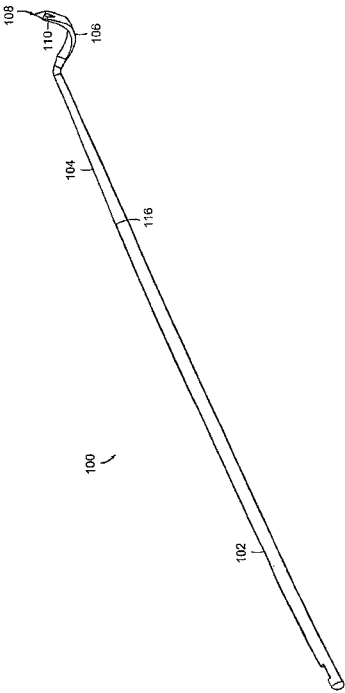
(54) 【発明の名称】 縫合の方法および装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】縫合に用いるための新規で有用な装置および方法が提供される。これらの装置および方法は、腹腔鏡処置、関節鏡処置および/または切開外科的処置に特に有用である。

【解決手段】縫合糸を縫合装置100に解放可能に接続し、縫合装置のチップ106と縫合糸の一部とを組織に貫通させ、次いで、縫合糸を縫合装置から解放し、その結果、縫合処置の達成のためにその組織を介して縫合糸を引き出すことができる。縫合装置は、縫合糸をその縫合糸における特定箇所で保持するように構成された鋭利チップのある細長い柄を有する把手102が設けられている。別の型の装置は、縫合糸をこの装置に装着するための新規で有用な構造体および方法が設けられている。別の観点によれば、所望の用途についての最も効果的なチップ形状を選択するための、相異なる形状の縫合装置用チップが提供される。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

把手と、

この把手に取り付けられた細長い柄と、

この細長い柄の表面において縫合系を特定箇所で捕捉するように構成された鋭利チップとを備えてなる縫合装置。

【発明の詳細な説明】

【発明の詳細な説明】

【0001】

関連する出願 / 優先権の主張

10

この出願は、1999年4月19日に提出された、発明の名称が「シャトルなし縫合のための縫合系先端具」である出願番号第60/129,993号の仮出願に関連するものであるとともに、その仮出願からの優先権を主張するものである。

【0002】

発明の分野

この発明は、外科縫合に用いる方法および装置に関するものである。

【0003】

発明の背景

2 片の組織を互いに引き寄せるためと、これらの組織が癒合するようにこれらを保持しておくために、縫合系がしばしば用いられる。外科医は、縫合針を用いることで、組織に穴を明けるとともにその組織を通して縫合系を引き寄せることができる。多くの処置では、創傷部あるいは切開部に、縫合針と縫合針保持器具とを用いて操作するのに適した空間がある。低侵襲性手術および最小侵襲性手術のための外科医による動きによって、限られた空間で、かつ、より長い到達距離で機能するように設計される器具についての要望が生じてきた。標準的な外科器具は、直径が5ミリメートルほどの小ささで長さがさまざまであるカニューレあるいは門脈と称される組織内の管を通過するために、伸ばされたり縮められたりする。外科手術の間に縫合系を用いて操作し、かつ調整するために、改良された外科器具についての要望がある。

20

【0004】

発明の概要

30

この発明によれば、縫合に用いるための新規で有用な以下のような装置および方法が提供される。これらの装置および方法は、腹腔鏡処置、関節鏡処置および / または切開外科的処置に特に有用である。

すなわち、

把手と、

この把手に取り付けられた細長い柄と、

この細長い柄の表面において縫合系を特定箇所で捕捉するように構成された鋭利チップとを備えてなる縫合装置。

上記鋭利チップが、縫合系を特定箇所で捕捉するように構成された開口を含んでいる上記縫合装置。

40

上記開口の少なくとも一部が、縫合系を特定箇所に食い込ませて保持するような寸法にされている上記縫合装置。

上記開口が、テーパ形状を有している中央部分を備えている上記縫合装置。

上記開口が、テーパ状開口からなる上記縫合装置。

上記開口が、細長い開口からなる上記縫合装置。

上記の細長い開口の少なくとも一部が、湾曲している上記縫合装置。

上記鋭利チップが、開口と、

ロック位置およびロック解除位置を少なくとも有しているロック機構とを含み、そのロック機構が、上記ロック位置にあるときに縫合系を上記開口の中に捕捉するように構成されている上記縫合装置。

50

縫合系が、ある長さの材料からなり、かつ、上記開口は、縫合系が上記開口を長さ方向に通過することができるように構成されている上記縫合装置。

上記開口が、縫合系を上記開口の中へ側方装着することができるようにさらに構成されている上記縫合装置。

上記鋭利チップが、縫合系を挿入することのできる開口を含み、かつ、上記開口が、縫合系を上記開口の中へ側方装着することができるように構成されている上記縫合装置。

上記鋭利チップが、鉤形の形態を有している上記縫合装置。

上記鋭利チップが、上記の柄に対して特定方向へ角度を付けて曲げられている上記縫合装置。

上記鋭利チップが、柄の遠位端で少なくとも1つのらせん状ループにより構成されている上記縫合装置。

上記鋭利チップは、その遠位先端が柄の近位端をほぼ指し示すように曲げられている上記縫合装置。

上記鋭利チップは、柄の遠位端に関して少なくとも一部が湾曲されている上記縫合装置。

上記鋭利チップが、ある角度で、かつ、遠位端の一方側部へ延出している上記縫合装置。

上記鋭利チップは、遠位端から少なくとも一部が凹状形態で前方へ延出している上記縫合装置。

上記鋭利チップが、上記遠位端から実質的にまっすぐにかつ前方へ延出している上記縫合装置。

上記鋭利チップが、上記の柄に対して選択的に移動することのできるものである上記縫合装置。

上記鋭利チップが、上記の柄から選択的に取り外すことのできるものである上記縫合装置。

。把手と、

細長い柄であって上記把手にこの柄の近位端で取り付けられた細長い柄と、

取り付けられた縫合系を有しており上記の細長い柄の遠位端で取り外すことのできる針とを備えてなる縫合装置。

上記遠位端が、鉤形の形態を有している上記縫合装置。

上記遠位端が、上記の柄に対して特定方向へ角度を付けて曲げられている上記縫合装置。

上記遠位端が、柄の遠位端で少なくとも1つのらせん状ループにより構成されている上記縫合装置。

上記遠位端は、その遠位先端が柄の近位端をほぼ指し示すように曲げられている上記縫合装置。

上記遠位端は、柄の遠位端に関して少なくとも一部が湾曲されている上記縫合装置。

上記遠位端が、ある角度で、かつ、その遠位端の一方側部へ延出している上記縫合装置。

上記遠位端は、遠位端から少なくとも一部が凹状形態で前方へ延出している上記縫合装置。

。

上記遠位端が、上記遠位端から実質的にまっすぐにかつ前方へ延出している上記縫合装置。

。

上記の針および縫合系が、その縫合系を上記縫合装置の一部に系通しすることによって上記縫合装置に取り外し可能に取り付けられている上記縫合装置。

上記の針および縫合系が、その縫合系を上記縫合装置の少なくとも遠位端と柄とに系通しすることによって上記縫合装置に取り外し可能に取り付けられている上記縫合装置。

上記の針および縫合系が、上記縫合装置の中に側方装着されている上記縫合装置。

把手と、

細長い柄であって上記把手にこの柄の近位端で取り付けられた細長い柄と、

この細長い柄の遠位端における鋭利チップと、

この鋭利チップに隣接して配置され、上記鋭利チップを組織に貫通させやすくするために、上記鋭利チップに対して移動するように構成されている組織支持装置とを備えてなる縫合装置。

縫合系は、上記鋭利チップに接続されており、かつ、その鋭利チップが組織を貫通するように、その鋭利チップとともに移動する上記縫合装置。

縫合系は、上記組織支持装置に接続されており、かつ、上記鋭利チップが組織から引っ込められるように上記鋭利チップに係合すべく配置されている上記縫合装置。

縫合装置を用意し、

この縫合装置の遠位端に縫合系を解放可能に接続し、

上記縫合装置の遠位端で基質を貫通させて上記縫合系がその基質を一部通過するようにし、次いで、

その縫合系を上記縫合装置から解放することからなる縫合系送出方法。

上記縫合装置の遠位端に縫合系を解放可能に接続する上記過程が、上記縫合装置の遠位端における開口の中に縫合系を解放可能に捕捉することからなる上記方法。

開口が、縫合系を捕捉しかつ保持するように構成され、かつ、解放可能に接続する上記過程が、その開口の中に縫合系を解放可能に捕捉しかつ保持することからなる上記方法。

開口に関連したロック機構が、その開口の中に縫合系を解放可能に捕捉するロック位置を有し、縫合系の少なくとも一部が、その開口の中に配置されており、かつ、解放可能に接続する上記過程が、上記ロック機構をそのロック位置に置くことからなる上記方法。

解放可能に接続する上記過程が、その開口の中に縫合系を側方装着する過程からなる上記方法。

上記縫合装置の遠位端が、その縫合装置に対して選択的に調節することのできるものである上記方法。

上記縫合装置の遠位端が、その縫合装置から選択的に取り外すことのできるものである上記方法。

上記縫合装置の遠位端に、異なって形成された遠位端を取り付けることができる上記方法。

縫合装置の遠位端に、取り外し可能な針が配置され、この針が、それに取り付けられた縫合系を有しており、かつ、縫合装置の遠位端で基質を貫通させる上記過程が、上記の取り外し可能な針で基質を貫通させることからなる上記方法。

上記解放過程に先立って、第2の貫通過程が、上記縫合装置の上記遠位端で上記基質を通して行なわれる上記方法。

遠位端が鋭利チップからなり、この鋭利チップに隣接して組織支持装置が配置され、かつ、基質を貫通させる上記過程が、鋭利チップを組織の特定部分に貫通させやすくするために、その組織支持装置を組織の特定部分に隣接させて位置決めし、次いで、その組織支持装置に対して鋭利チップを移動させることからなる上記方法。

縫合系が、鋭利チップに接続され、かつ、鋭利チップが組織を貫通するように、鋭利チップとともに移動する上記方法。

組織を貫通するように構成された鋭利チップと、組織の特定部分に隣接して位置するように配置されるとともに、鋭利チップを組織の特定部分に貫通させやすくするために、かつ、鋭利チップを組織の特定部分から引っ込めることができるようにするために、鋭利チップに対して移動することのできる組織支持装置とを用意し、

鋭利チップが組織の特定部分から引っ込められるように鋭利チップに係合すべく配置された縫合系を用意し、

その組織支持装置を組織の特定部分に隣接させて位置決めし、かつ、その組織支持装置に対して鋭利チップを移動させて組織の特定部分に穴を明け、さらに、鋭利チップが組織の特定部分から引っ込められるように縫合系を鋭利チップに係合させ、次いで、

鋭利チップが組織の特定部分から引っ込められた後に鋭利チップから縫合系を解放することからなる縫合系送出方法。

組織支持装置に対して鋭利チップを移動させる過程は、鋭利チップが組織に穴を明けるように鋭利チップが組織支持装置へ向かって回転するとともに、鋭利チップが組織の特定部分から引っ込められるように鋭利チップが組織支持装置から離れて回転するために、組織支持装置と鋭利チップとを互いに関して回転させることと、縫合系を鋭利チップに係合さ

10

20

30

40

50

せることと、鋭利チップが組織支持装置から離れて回転して組織の特定部分から引っ込められるように縫合糸を組織の特定部分を通して引き寄せることとからなる上記方法。

把手と、

この把手に取り付けられた細長い柄と、

この細長い柄の表面において縫合糸に係合するように構成された鋭利チップと、

ロック位置およびロック解除位置を少なくとも有しているロック機構とを備えてなり、そのロック機構が、上記ロック位置にあるときに縫合糸を特定位置に保持するように構成されている縫合装置。

上記ロック機構が、縫合糸を取り込むための、かつ、縫合糸を鋭利チップに対して規制的に調整するための、少なくとも1つの部分的閉鎖位置を有している請求項51に記載の縫合装置。

把手と、

この把手に取り付けられた細長い柄と、

この細長い柄の表面における鋭利チップとを備えてなり、

その鋭利チップが、縫合糸を上記装置に側方装着することができるよう構成された開口を有している縫合装置。

上記開口が、テーパ状開口からなる上記縫合装置。

把手と、

この把手に取り付けられた細長い柄と、

この細長い柄の表面において、縫合処置の間に組織に穴を明けるように構成された穴明け部分を有している鋭利チップと、

この鋭利チップに接続された縫合糸とを備えてなり、その縫合糸が、上記鋭利チップから外方へ延出して上記縫合糸を上記鋭利チップに対して把持しかつ用手操作することのできるような縫合糸部分を有しており、この縫合糸部分が、上記穴明け部分により穴の明けられた組織を通して鋭利チップによって支持されるように配置されている縫合装置。

【0005】

この発明に係る1つの型の縫合装置は、縫合糸をその縫合糸における特定箇所で保持するように構成された鋭利チップのある細長い柄を有する把手が設けられていることを特徴とする。この発明の原理によれば、その鋭利チップへ縫合糸を保持するための、相異なるいくつかの型の構造体が提供される。例えば、そのような構造体の1つには、前記チップに形成され、かつ、縫合糸をその中に食い込ませて保持することができるよう構成されたテーパ状の開口が備わっている。別の例では、縫合糸を保持するための、湾曲していてもよい細長い開口が設けられている。さらに別の例では、縫合糸を保持するためのロック位置と、縫合糸を解放するためのロック解除位置と、前記チップに対する縫合糸の位置を規制的に調整するための部分ロック位置とが備わっているロック機構が設けられている。

【0006】

この発明の原理に係る別の型の装置は、縫合糸をこの装置の中に装着するための新規で有用な構造体および方法が設けられていることを特徴とする。この発明のこのような観点における1つの例では、縫合糸はこの装置の中に側方装着することができる。このことによって、縫合糸を通す必要性がなくなるなどのおびたしい利点をもたらされ、かつ、縫合糸の側方解放が可能になる。

【0007】

この発明のさらに別の観点によれば、所望の用途についての最も効果的なチップ形状を選択するための、相異なる形状の縫合チップが提供される。この発明のこのような観点における1つの例では、それぞれのチップは、縫合装置から取り外して別のチップと交換することができる。この発明のこのような観点における別の例では、それぞれのチップの位置は、所望の用途のための縫合装置をさらに改良するために、縫合装置の柄に対して調節することができる。

【0008】

この発明に係る縫合装置は、縫合系に食い込んだ針先とともに使うように構成することもできる。

【0009】

この発明の原理に係るさらに別の型の縫合装置には、前記鋭利チップに隣接して配置された組織支持構造体が含まれており、この構造体は、そのチップが組織を貫通しやすくなるように、前記鋭利チップに対して移動することができるものである。この発明のこのような観点における1つの例では、縫合系は、前記チップが組織を貫通したときにその組織を介して同チップにより支持される。この発明のこのような観点における別の例では、前記チップは、組織を貫通した後に縫合系に係合し、かつ、同チップがその組織から引っ込まれたときにその組織を通して縫合系を引き出す。

10

【0010】

この発明に係る方法は、縫合系を縫合装置に解放可能に接続し、縫合装置のチップと縫合系の一部とを組織に貫通させ、次いで、縫合系を縫合装置から解放し、その結果、縫合処置の達成のためにその組織を通して縫合系を引き出すことができることを特徴とする。

【0011】

この発明におけるこれらのかつ他の特徴および方法は、以下の詳細な説明と添付図面から、さらに明らかになるであろう。

【0012】

この発明のより完全な理解は、例示的ないくつかの図と関連させて考慮に入れられた詳細な説明と特許請求の範囲とを参照することによって、得ることができる。これらの図において、類似した参照番号は、これらの図を通じて、類似した要素を指している。

20

【0013】

詳細な説明

先に記載されたように、この発明によれば、例えば、腹腔鏡処置、関節鏡処置および/または切開外科的処置に関連する縫合に有用であるいくつかの型の装置および方法が提供される。この発明の原理に係る装置および方法のいくつかの例が特定の実施態様に関連して以下に記載されるが、当業者にとっては、1つの例に認められたこの発明のいくつかの観点を、単独で、あるいは他のいくつかの例における装置および方法と組み合わせて（あるいはこれらの代わりであっても）、実施することができるということは明らかであろう。

30

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】図1は、この発明に係る縫合装置の斜視図である。

【図2】図2は、図1の縫合装置の遠位端における鋭利チップの拡大斜視図である。

【図3】図3は、この発明の原理に係る縫合装置に縫合系を接続する際の、縫合系と縫合装置との相対位置を示している。

【図4】図4は、この発明の原理に係る縫合装置に縫合系を接続する際の、縫合系と縫合装置との相対位置を示している。

【図5】図5は、この発明の原理に係る縫合装置に縫合系を接続する際の、縫合系と縫合装置との相対位置を示している。

40

【図6】図6Aおよび図6Bは、この発明の原理に係る縫合装置の鋭利チップにおける開口に縫合系が捕捉されて保持される方法を模式的に示している。

【図7】図7は、この発明の原理に係る縫合装置を使って縫合系を組織に施す際の連続的過程の1つを示している。

【図8】図8は、この発明の原理に係る縫合装置を使って縫合系を組織に施す際の連続的過程の1つを示している。

【図9】図9は、この発明の原理に係る縫合装置を使って縫合系を組織に施す際の連続的過程の1つを示している。

【図10】図10は、この発明の原理に係る縫合装置を使って縫合系を組織に施す際の連続的過程の1つを示している。

50

【図 1 1】図 1 1 は、この発明の原理に係る鋭利チップと、この鋭利チップに縫合系を接続する際に使うための開口の異なる形態とを模式的に示している。

【図 1 2】図 1 2 は、この発明の原理に係る鋭利チップと、この鋭利チップに縫合系を接続する際に使うための開口の異なる形態とを模式的に示している。

【図 1 3】図 1 3 は、この発明の原理に係る鋭利チップと、この鋭利チップに縫合系を接続する際に使うための開口の異なる形態とを模式的に示している。

【図 1 4】図 1 4 は、この発明の原理に係る鋭利チップと、この鋭利チップに縫合系を接続する際に使うための開口の異なる形態とを模式的に示している。

【図 1 5】図 1 5 は、この発明の原理に係る鋭利チップと、この鋭利チップに縫合系を接続する際に使うための開口の異なる形態とを模式的に示している。

10

【図 1 6】図 1 6 は、この発明の原理に係る鋭利チップと、この鋭利チップに縫合系を接続する際に使うための開口の異なる形態とを模式的に示している。

【図 1 7】図 1 7 は、この発明の原理に係る鋭利チップと、この鋭利チップに縫合系を接続する際に使うための開口の異なる形態とを模式的に示している。

【図 1 8】図 1 8 は、この発明の原理に係るロック機構の備わった縫合装置を模式的に示している。

【図 1 9】図 1 9 は、この発明の原理に係るロック機構の備わった縫合装置を模式的に示している。

【図 2 0】図 2 0 は、この発明の原理に係るロック機構の備わった縫合装置を模式的に示している。

20

【図 2 1】図 2 1 は、この発明の原理に係るロック機構の備わった縫合装置を模式的に示している。

【図 2 2】図 2 2 は、この発明の原理に係る鋭利チップに縫合系を接続する際に使うための一組の開口がある鋭利チップを模式的に示している。

【図 2 3】図 2 3 は、この発明の原理に係る鋭利チップに縫合系を接続するための開口がある鋭利チップの異なる形態を模式的に示している。

【図 2 4】図 2 4 は、この発明の原理に係る鋭利チップに縫合系を接続するための開口がある鋭利チップの異なる形態を模式的に示している。

【図 2 5】図 2 5 は、この発明の原理に係る鋭利チップに縫合系を接続するための開口がある鋭利チップの異なる形態を模式的に示している。

30

【図 2 6】図 2 6 は、この発明の原理に係る鋭利チップに縫合系を接続するための開口がある鋭利チップの異なる形態を模式的に示している。

【図 2 7】図 2 7 は、この発明の原理に係る鋭利チップに縫合系を接続するための開口がある鋭利チップの異なる形態を模式的に示している。

【図 2 8】図 2 8 は、この発明の原理に係る鋭利チップに縫合系を接続するための開口がある鋭利チップの異なる形態を模式的に示している。

【図 2 9】図 2 9 は、この発明の原理に係る鋭利チップに縫合系を接続するための開口がある鋭利チップの異なる形態を模式的に示している。

【図 3 0】図 3 0 は、この発明の原理に係る縫合装置に食い込み縫合系の取り付けられた縫合針を接続するための異なる方法を模式的に示している。

40

【図 3 1】図 3 1 は、この発明の原理に係る縫合装置に食い込み縫合系の取り付けられた縫合針を接続するための異なる方法を模式的に示している。

【図 3 2】図 3 2 は、この発明の原理に係る縫合装置に食い込み縫合系の取り付けられた縫合針を接続するための異なる方法を模式的に示している。

【図 3 3】図 3 3 は、この発明の原理に係る縫合装置に縫合系を接続するための別の方法を模式的に示している。

【図 3 4】図 3 4 は、この発明の原理によって組織支持装置が設けられている縫合装置を示している。

【図 3 5】図 3 5 は、この発明の原理によって組織支持装置が設けられている縫合装置を示している。

50

【図 3 6】図 3 6 は、この発明の原理によって組織支持装置が設けられている縫合装置を示している。

【0015】

図 1 に、この発明に係る 1 つの型の縫合装置が示されている。縫合装置 100 には、把手 102 と、この把手に接続された柄 104 と、この柄の他方（遠位）端部に接続されたチップ 106 とが備わっている。用途によって左右されるが、把手 102 は一般的に長さが 4 ～ 6 インチであり、柄 104 は一般的に長さが 1 ～ 24 インチである。この柄は一般的に、直径が 2 ～ 3 ミリメートルであり、また、剛性材料から形成されている。チップ 106 には、鋭利な尖端 108 と鳩目（すなわち開口）110 とが備わっている。

【0016】

図 2 にはチップ 106 の拡大図が示されている。チップ 106 は、以下でさらに検討されるように、都合のよい縫合系送出的ための湾曲鉤状形状をしている。鳩目 110 には、この縫合装置と関連して使われる縫合系よりも幅広に構成された上端部分 112 と、縫合系を捕捉するためにより幅狭にされた下端部分 114 とが備わっている。

【0017】

さて、図 3 ～ 図 6 B によれば、この発明に係る方法が示されている。縫合系 302 は、図 3 に示されたように鳩目 110 に通されて、図 4 に示されたように縫合系の特定長さ部分（「d」で標記されている）が縫合装置 100 から延出するようにされる。この長さ部分 d は約 2 インチであるのが好ましい。縫合系の特定箇所が鳩目 110 の位置に来ると、この長さ部分は図 5 に示されたように下方へ引っ張られて、縫合系が鳩目 110 に捕捉される。図 6 A には、下方引張過程の前における、鳩目 110 の幅広上端部分 112 の中における縫合系の位置が示されている。図 6 B には、図 5 の下方引張過程の後における、鳩目 110 の幅狭下端部分 114 の中に食い込んだ縫合系が示されている。このように、図 6 B における縫合系は、この発明の 1 つの観点に従って幅狭下端部分 114 の中に捕捉される。

【0018】

図 7 ～ 図 10 には、この発明に係る前記実施態様の使用が、組織 704 にできた裂け目 702 の修復について示されている。図 7 および図 8 に示されたように、縫合系 302 の通された縫合装置 100 が組織 704 の一部に挿入される。縫合装置 100 の鋭利チップ 106 が組織 704 を貫通し、それによって、縫合系 302 が組織 704 の他方側へ送り出される。縫合系 302 を鳩目 110 から解放するのを容易にするためと、組織 704 を通る進路の残り部分にある縫合系 302 の短尺端を引いて装置 100 から縫合系 302 を完全に取り外す（図 10 参照）ために、第 2 用具 902（図 9）が使われる。証拠図面 A には、図 7 ～ 図 10 と同様であって、同用具、縫合系および縫合される組織の間におけるコントラストをいっそうはっきりと示すことのできるカラーイラストが示されている。

【0019】

図 11 には、図 1 ～ 図 10 に説明された型のテーパ状鳩目 110 の拡大図が示されているとともに、鋭利チップ 106 に対するテーパ状鳩目 110 の方位がさらに示されている。

【0020】

図 12 には、この発明の原理に係る代わりの鳩目 1204 の実施態様が備わった鋭利チップ 1202 の拡大図が示されている。鋭利チップ 1202 には、鳩目 1204 の幅広上方部分 1208 か幅広下方部分 1210 かのいずれか一方から縫合系を捕捉することのできるテーパ状中央部分 1206 が備わっている。この実施態様の 1 つの利点は、装置のオペレーターが、幅広上方部分 1208 か幅広下方部分 1210 かのいずれか一方へ向けて縫合系を引くことによって、装置 100 から縫合系 302 を取り外すことができることにある。この発明におけるこのような実施態様によれば縫合系を解放することができるやり方に付加的な融通性をもたらすことができる、ということは当業者に明らかであろう。

【0021】

図 13 には、この発明の原理に係る代わりの鳩目 1304 の実施態様が備わった鋭利チ

10

20

30

40

50

ップ１３０２の拡大図が示されている。鳩目１３０４は、縫合系を鳩目の中へ側方装着するために構成されている。鳩目１３０４は、縫合系の端がほつれているときには有利であるが、そうでないときには、縫合系を長さ方向に通過させること（図３および図４に示されたように）は困難であるかあるいは時間の浪費である。図１３に示された鳩目の形態によれば、縫合系の装着、摺動および縫合装置からの解放をきわめて容易に行なうことができる。

【００２２】

図１４には、この発明の原理に係る、縫合系の側方装着の特徴が備わったさらに別の鳩目１４０４の実施態様が備わった別の鋭利チップ１４０２が示されている。鳩目１４０４のＴ字状形態によって、縫合系は、鳩目１４０４の中に実質的に捕捉されるとともに、鳩目を通して長さ方向に摺動することができる。

10

【００２３】

図１５には、この発明の原理に係る、側方装着性能がある別の鳩目１５０４の別の形態が備わったさらに別の鋭利チップ１５０２が示されている。鳩目１５０４は、縫合系を実質的に捕捉するとともに縫合系をこの鳩目に通して長さ方向に摺動させることができる深い対角線状長穴１５０６で構成されている。

【００２４】

図１６には、この発明の原理に係る、側方装着性能がある鳩目１６０４の別の実施態様が備わったさらに別の鋭利チップ１６０２が示されている。図１６において、鳩目１６０４には、縫合系を、縫合装置の中に側方装着し、次いで、縫合系の捕捉を改善するためにこの鳩目のテーパ状部分の中へ食い込ませることができるように、テーパ状形態が備わっている。

20

【００２５】

図１７には、この発明の原理に係る、側方装着性能がある鳩目１７０４の別の実施態様が備わったさらに別の鋭利チップ１７０２が示されている。図１７において、鳩目１７０４には、縫合系を実質的に捕捉するとともに縫合系をこの鳩目に通して長さ方向に摺動させることができる、細長くて湾曲した形態が備わっている。この鳩目における細長くて湾曲した形態によれば、縫合系がこの縫合装置からうっかり外れるようなことはほとんど起きそうにない。

【００２６】

30

図１８～図２１には、この発明の原理に係る鋭利チップにおける開口の中に縫合系を捕捉するためのロック機構の備わった縫合装置が示されている。図１８に示されたように、縫合装置１８００には、ロック機構であるボタン１８０４の備わった把手１８０２と、柄１８０６と、鋭利チップ１８０８とが備わっている。

【００２７】

図１９には、開口１９０２とロック要素１９０４とが備わっている鋭利チップ１８０８の拡大図が示されている。ロック要素１９０４は、装置オペレーターによってボタン１８０４（図１８）で調整される。ロック要素１９０４は、（１）鋭利チップにおける開口の中に縫合系を挿入するとともに鋭利チップにおけるその開口から縫合系を取り外すための開放位置と、（２）縫合系を取り込むとともに同チップに対して縫合系を規制的に調整するための少なくとも１つの部分的閉鎖位置と、（３）鋭利チップにおける開口の中に縫合系を特定箇所で捕捉するためのロック位置とに、選択的に置くことができる。

40

【００２８】

図２０には、この発明の原理に係るロック機構の使用がさらに示されている。図２０には、開口２００４の備わった鋭利チップ１８０８の模式図が示されている。鋭利チップ１８０８には、側方装着性能とロック要素１９０４とが備わっており、このロック要素は、これを矢印２００２の方向に移動させることによって、前記の位置のいずれかに選択的に置くことができる。縫合系がまず側方装着されるときには、ロック要素１９０４は、図２０に示されたように開放位置にある。ロック要素１９０４が前方へ押されるとともに側方開口２００４が閉鎖されると、縫合系は、このチップの中に取り込まれるが、まだ特定位

50

置に捕捉されない。この状態では、縫合系は、鋭利チップ 1808 に対して長さ方向に摺動することができるが、縫合系の全長が開口 2004 から引き出されない限り、鋭利チップ 1808 から外れることができない。要素 1904 がさらに前方へ移動すると、それはわずかな程度の摩擦によって縫合系と係合し、この装置オペレーターは、縫合系を傷つけることなく縫合系の長手移動を調整することができる。最後に、ロック要素 1904 が完全に前方へ押されると、縫合系は、開口 2004 の中に食い込んでロック位置に固定されるようになる。

【0029】

図 21 に示されたこの発明の実施態様では、このロック要素は、図 20 と同様の方法で移動し、かつ、同様のロック原理が適用されるが、側方装着の性能がもたらされることはまったくない。

10

【0030】

図 22 によれば、この発明の原理に係る鋭利チップにさまざまな鳩目の組み合わせを形成することができる。例えば、装置のチップに、深い対角線状長穴 2204 に加えて円形鳩目 2202 を形成して、同じ用具において、縫合系の完全包囲（円形鳩目）あるいは縫合系を実質的に捕捉する縫合系の側方装着（深い対角線状長穴）を選択することができる。別の例として、図 12 に示されたようにテーパー状中央部分のある鳩目もまた、側方装着用形態に組み合わせることができる。この発明の原理に係るこれらの組み合わせあるいは他の組み合わせは、この発明の範囲内に含まれるように意図されている。

20

【0031】

図 23 ~ 図 29 には、この発明の相異なる用途に使うための相異なる鋭利チップが示されている。図 23 に示された鋭利チップ 2302 は、この装置の柄の遠位端から実質的にまっすぐにかつ前方へ延出している。これに代えて、図 24 に示されたように、鋭利チップ 2402 は、その柄に対して特定方向に角度を付けて曲げられかつ側方へ傾斜していてもよい。図 25 に示されたように、鋭利チップ 2502 は、同チップの遠位部分が柄の近位端をほぼ指し示すように、さらに曲げられていてもよい。

【0032】

さて、図 26 によれば、この発明に係る代替の実施態様が示されており、ここでは、鋭利チップ 2602 が柄の遠位端に関して少なくとも一部湾曲されている。

30

【0033】

図 27 に係るさらに別の実施態様では、柄の遠位端で少なくとも 1 つのらせん状ループにより鋭利チップ 2702 が形成されている。図示されたこの例では、らせん形状のチップ 2702 には、およそ 1.5 個のループがある。らせんの前方近傍に保持された縫合系のある、この発明におけるこの実施態様によれば、縫合系は、一針の糸を縫合装置から外すのに先立って 2 回以上、組織に通すことができる。

【0034】

図 28 に示されたように、鋭利チップ 2802 は、柄の遠位端の一方側部へ直接延出するように構成することができる。

【0035】

さらに、図 29 に示されたように、鋭利チップ 2902 は、柄の遠位端から少なくとも一部が凹状形態で前方へ延出するように構成することができる。

40

【0036】

鋭利チップの前記形態のそれぞれは、特定の用途について、外科医が組織への最適な再接近のために選ばれた位置で組織に正確に穴を明けることができるように、選ぶことができる。さらに、鋭利チップの前記形態のそれぞれは、縫合系が基質を最も良好に通過するように組み合わせの広い選択をもたらしために、この発明における他のさまざまな観点と組み合わせることができる。例えば、鋭利チップの前記形態のそれぞれは、鳩目形態のいずれかと組み合わせることができる。さらにまた、鳩目のいずれかには、側方装着性能および/またはロック機構が備わっていてもよい。

【0037】

50

この発明のさらに別の原理によれば、それぞれのチップは、縫合系を組織の裂け目に施すことができる方位に関してさらに融通性をもたすために、縫合装置の軸に対する柄の調節機能について構成することができる。例えば、図 24 におけるチップの柄に対する角度は、矢印 2404 の方向における箇所調節することができる。同様に、図 27 におけるループ状チップは、矢印 2706 の方向に回転させることができる。このように開示された鋭利チップのそれぞれは、枢動され、回転され、さもなければ、鋭利チップと縫合系との改善された用途のために適合することができる。

【0038】

この発明のさらに別の原理によれば、さまざまなチップは、縫合装置から取り外して、代わりのチップに、あるいは新しくより鋭利なチップに交換することができる。例えば、図 24 によれば、チップは、箇所 2406 で取り外して、図 25 に示されたようなチップに交換することができる。この代わりに、箇所 116 (図 1) で柄を取り外すことによるなどして、チップをこの縫合装置における他の位置で取り外し、異なった鋭利チップを支持する柄に交換することができる。

【0039】

さて、図 30 ~ 図 32 によれば、縫合系が食い込まれた針先を使うように構成された、この発明のさらに別の実施態様が示されている。図 30 に示されたように、針チップ 3004 に取り付けられた縫合系 3002 は、柄 3006 の備わった縫合装置の中に、湾曲した遠位端部分 3008 で側方装着することができる。この発明のこのような観点によれば、針チップ 3004 は、鋭利にされており、縫合系 3002 を組織に貫通させるとともに先導するように作用する。組織に穴が明けられると、この針チップは、縫合系把持具 (例えば、図 9 における第 2 用具 902 に類似したもの) で把持されるとともに、矢印 3010 の方向に柄から外される。柄が引っ込められて、縫合系が組織を通して引かれ、ひと縫いが完了する。この実施態様によってもまた、鈍くなったチップを鋭利な針に簡単に交換することができる。さらに、ある長さの縫合系がすでに収容されている開口を通して縫合系の短尺端を引くことに関連した組織剥離はなくなる。

【0040】

図 30 のような柄は、この装置の一部長さ (図 31) あるいはこの装置の全長 (図 32) を通る縫合系が装着されたカニューレとして、改変することができる。これらの構造は、処置区域からゆるんだ量の縫合系を少なくしたりなくしたりするのに有利である。図 30 ~ 図 32 におけるそれぞれの装置には、組織に穴を明けるとともに針を確実に保持するための構造が備わっているのが好ましいであろう。

【0041】

これに代えて、図 33 によれば、縫合装置 3300 は、図 1 ~ 図 29 のような鋭利チップ 3302 を有することができる。また、この装置の全長を通り、鋭利チップが基質に穴を明けるとできるだけ早く把持するための位置である部分 3304 がチップから突出している縫合系が取り付けられたカニューレとして構成することができる。この部分 3304 は組織に穴を明ける鋭利チップの第 1 部分の背後に位置しているので、外方へ延出している部分は鋭利チップによって穴の明けられた組織を通して支持されている。

【0042】

さて、図 34 によれば、鋭利チップ 3404 に隣接して配置された組織支持構造体 3402 が含まれている、この発明の別の実施態様が示されている (証拠図面 B は、図 34 と同様であるが、縫合系も示しているカラーイラストである)。組織支持構造体 3402 は、柄を入れる回転可能なさや 3406 に配置されている (柄は、示されていないが、把手 3408 からチップ 3104 にかけて取り付けられている)。回転可能なさや 3406 は、鋸歯状把手 3410 を回すことで回転するのが好ましい。図 35 を簡単に説明すると、図 34 の原理に係る縫合装置の遠位先端の拡大図が示されている。

【0043】

縫合すべき組織に穴を明けて、鋭利チップで組織を「押す」ために背後から圧力を加えることは、時には困難である。組織支持構造体 3402 の使用は、縫合すべき組織の一部

10

20

30

40

50

を、鋭利チップ 3404 と組織支持構造体 3402 との間に位置させることによって達成される。鋭利チップは組織を通して回転され、一方、組織支持構造体は、組織を鋭利チップに押し付けるとともに鋭利チップによって穴を明ける反対方向に回転される。組織支持構造体 3402 と鋭利チップ 3404 との間の相対回転運動によって、装置オペレーターに、組織へ加えられる力の程度についての触覚的フィードバックがもたらされる。

【0044】

この発明の原理によれば、組織支持構造体 3402 と鋭利チップ 3404 とは、広範囲の角度あるいは位置から組織の一部に到達しかつ係合するように、適切に構成される。この発明に係るさまざまな鋭利チップの形態と、これらのチップの組織支持構造体に対する調節機能との組み合わせによって、鋭利チップと組織支持構造体との間に組織を係合させるためのいっそう広範囲の選択肢がもたらされる。

10

【0045】

引き続いて図 35 によれば、縫合系 302 は、鋭利チップに接続されており、鋭利チップが組織に穴を明けると、その組織に通される。穴明けの後に、この縫合系は、先に説明したように組織の他方側部に把持され、鋭利チップから解放され、その後、縫合にさらに使うために組織を通して引き寄せられる。

【0046】

さて、図 36 によれば、組織を通して縫合系を引き寄せるための代わりの形態が開示されている（証拠図面 C は、図 36 の要素のカラーイラストである）。組織支持装置 3406 における吊り索 3602 には縫合系 302 が接続されている。鋭利チップは、この組織支持装置の助けを借りて組織に穴を明けるとともに、鋭利チップが組織を通して引き戻されて縫合装置が回転して開かれると縫合系に係合する。このようにして、鋭利チップに近づきにくい組織の側方から縫合系を施すのが好ましいときには、鋭利チップを組織の反対側（近づきやすい側）から係合させて、組織を通して縫合系を引き戻すことができる。

20

【0047】

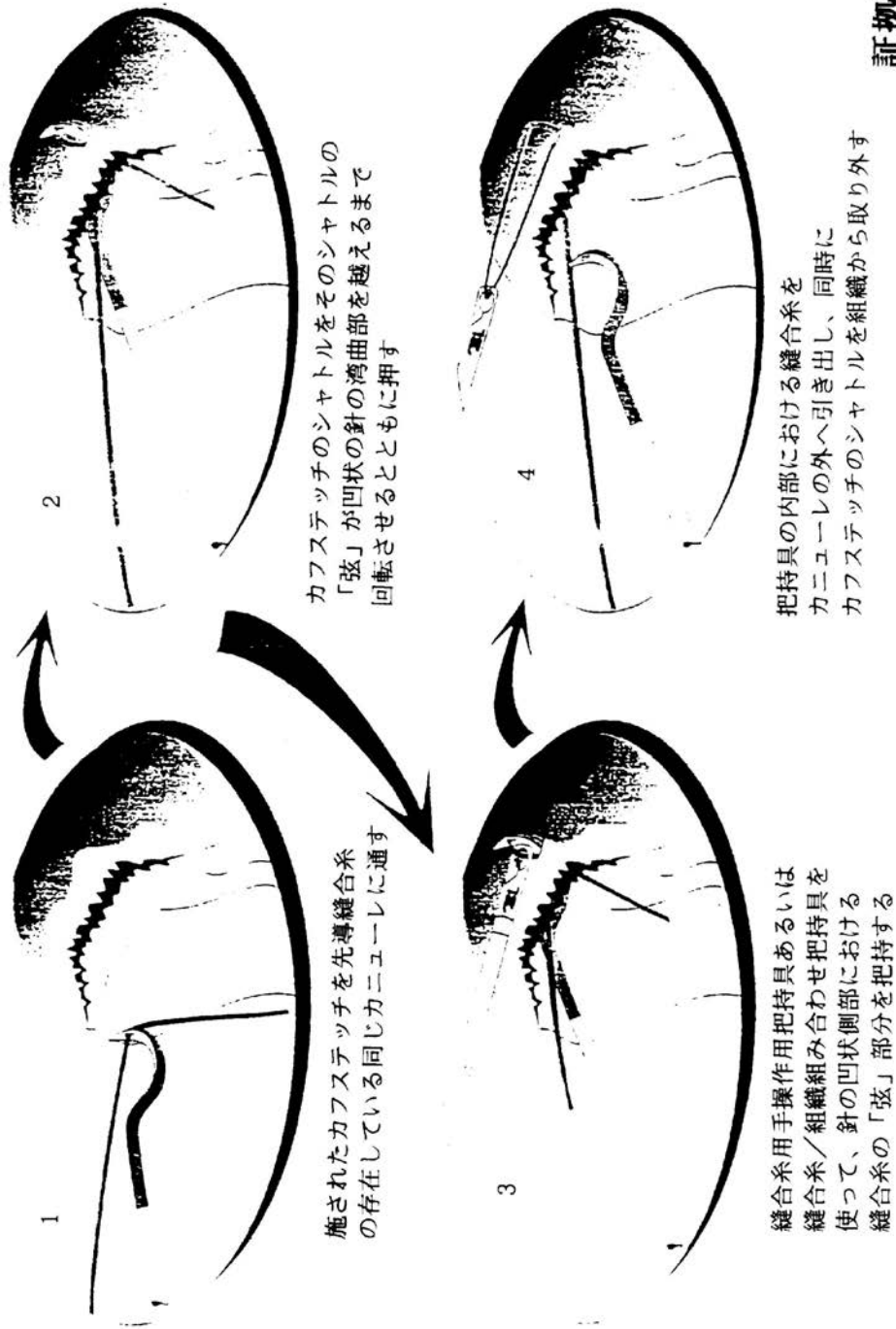
この発明は、これまで、好適な実施態様に関して説明してきた。しかしながら、この開示内容を読んだ当業者は、この発明の範囲から逸脱することなく好適な実施態様に施すことのできる変更および改変を認識するであろう。例えば、さまざまな開口の形態と鋭利チップの形態との組み合わせは、この開示内容によってはっきりと予想される。同様に、さまざまな鳩目、チップ形態および、相異なる組織支持構造体のあるロック機構の使用は、意図されている。これらのそして他の変更および改変は、特許請求の範囲に記載されたように、この発明の範囲内に含まれることが意図されている。

30

【0048】

[証拠図面 A]

OB Lカフステッチ 登録商標
縫合系の通過と引き上げ



証拠図面 A

10

20

30

40

支持リングと縫合糸長穴との備わった縫付装置（プレートB）

証拠図面B

10

20

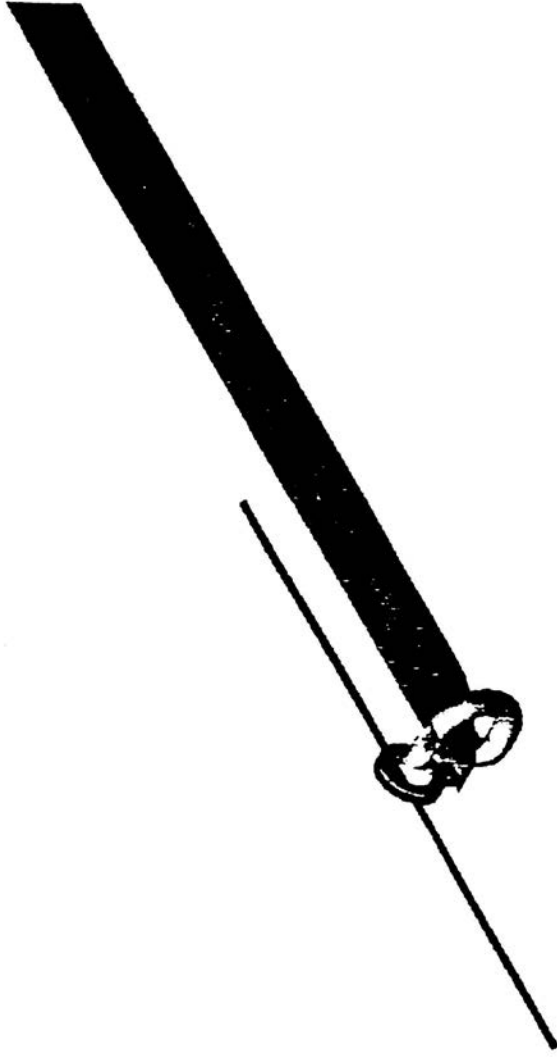
30

40

[証拠図面 C]



支持リングと縫合糸長穴との備わった縫付装置（プレートA）

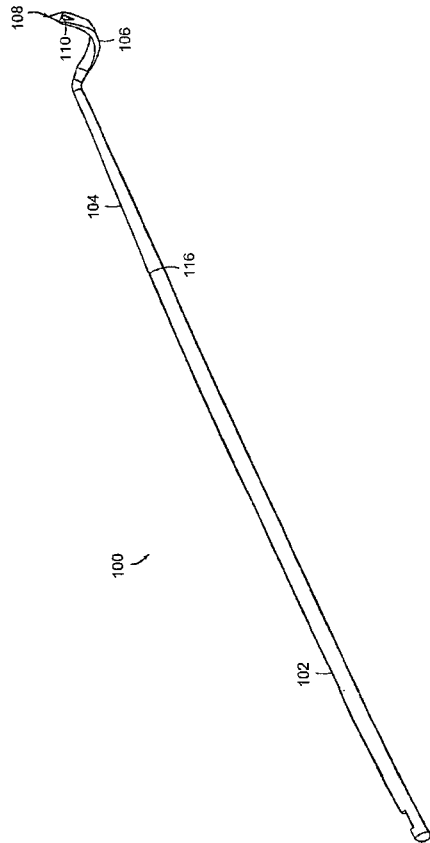


証拠図面 C

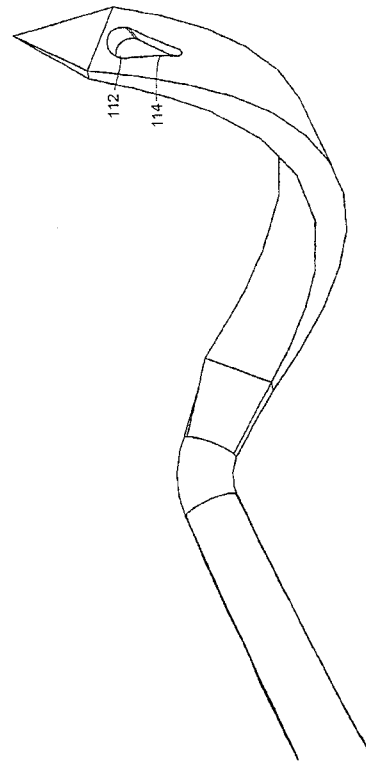
10

20

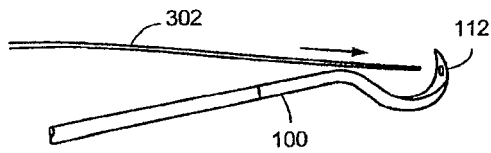
【図 1】



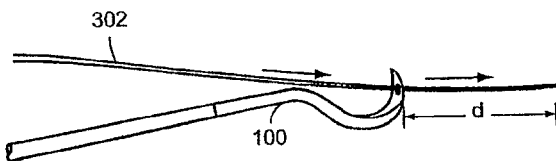
【図 2】



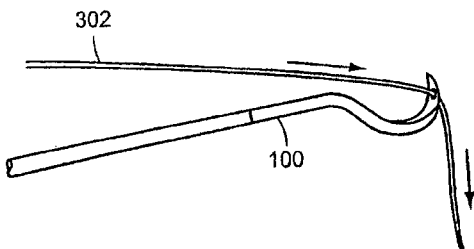
【図 3】



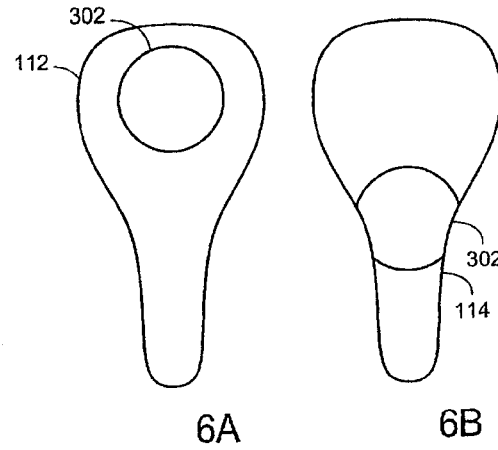
【図 4】



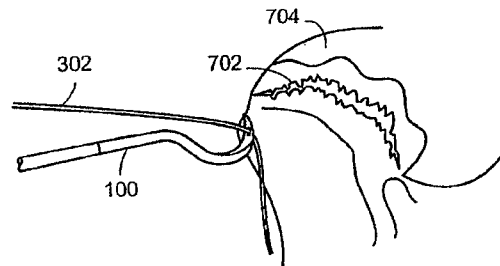
【図 5】



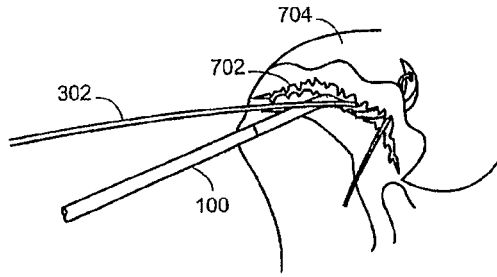
【図 6】



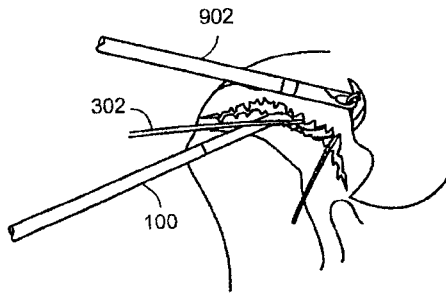
【図 7】



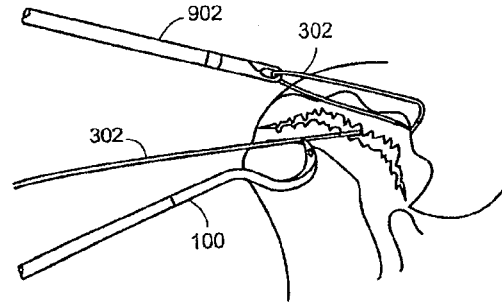
【図 8】



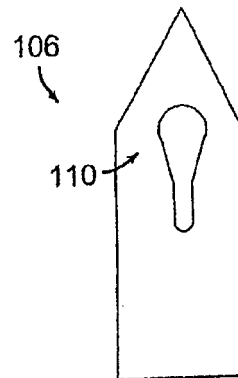
【図 9】



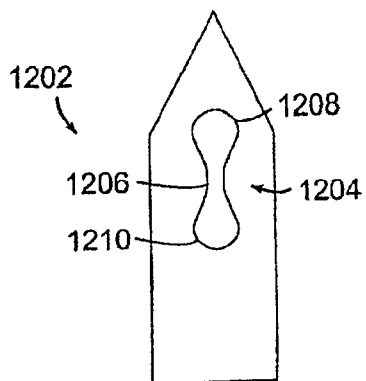
【図 10】



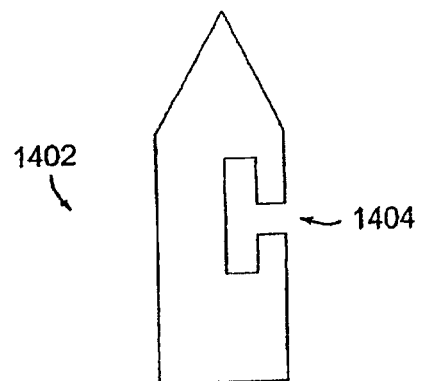
【図 11】



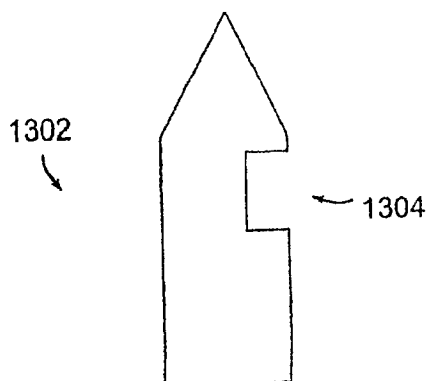
【図 12】



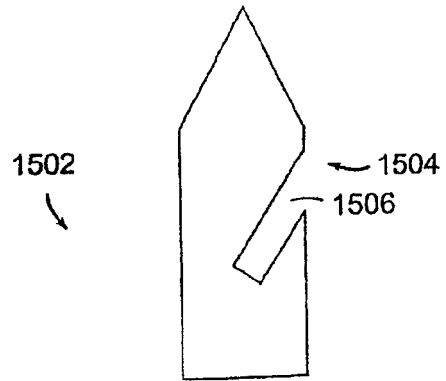
【図 14】



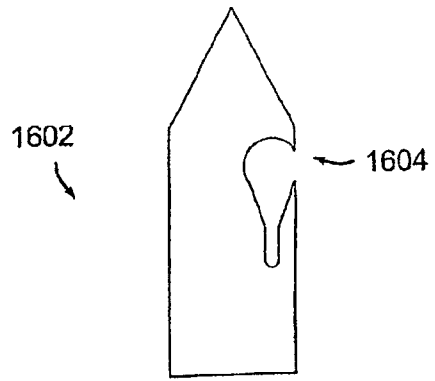
【図 13】



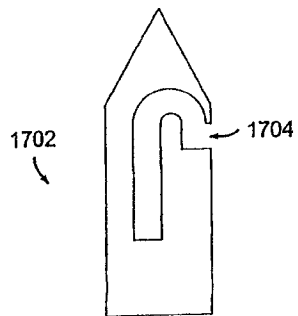
【図 15】



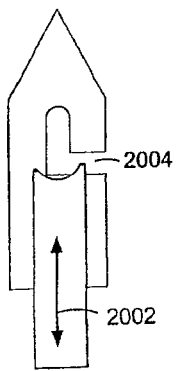
【図 16】



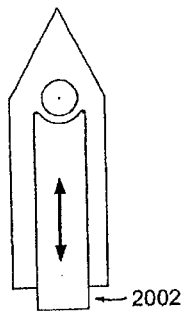
【図 17】



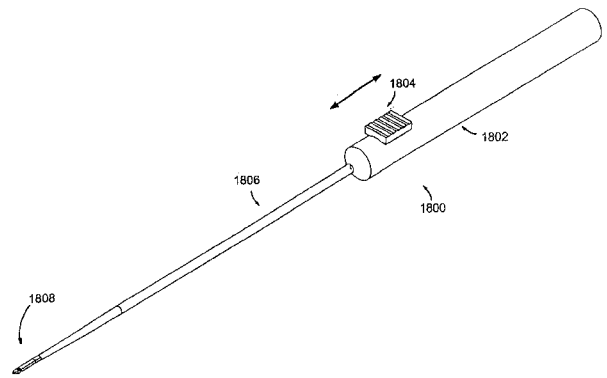
【図 20】



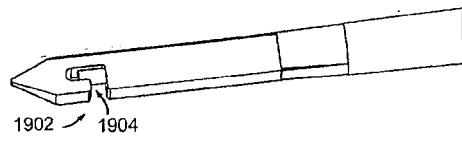
【図 21】



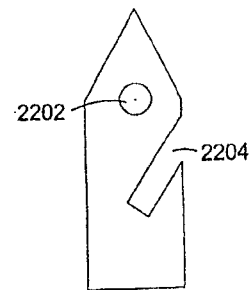
【図 18】



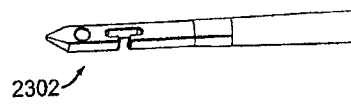
【図 19】



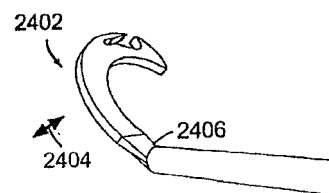
【図 22】



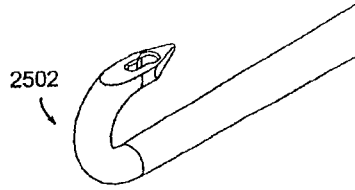
【図 23】



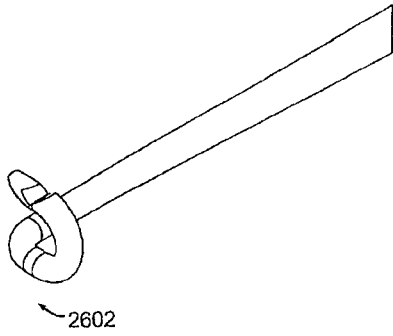
【図 24】



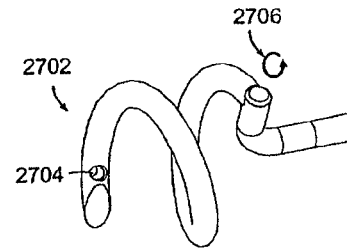
【図 25】



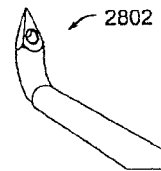
【図 26】



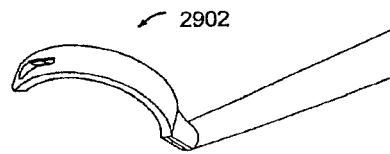
【図 27】



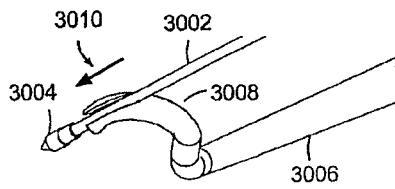
【図 28】



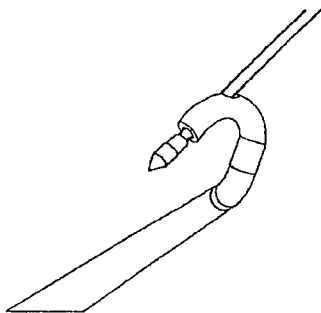
【図 29】



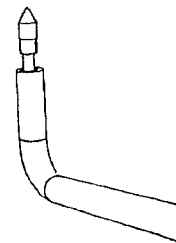
【図 30】



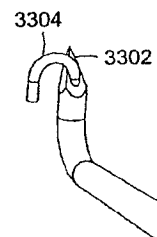
【図 31】



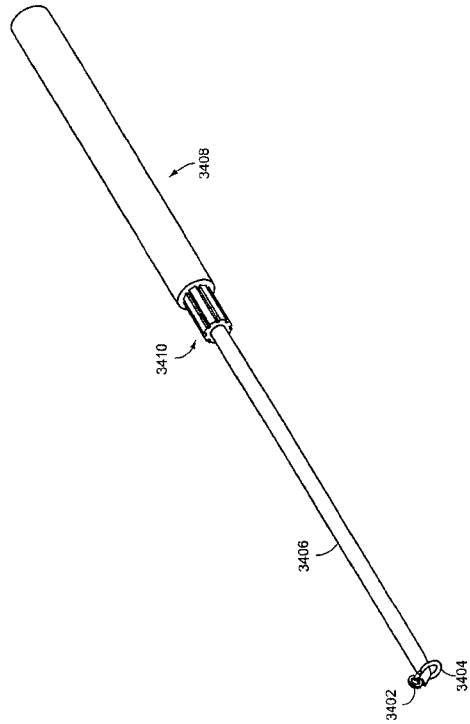
【図 32】



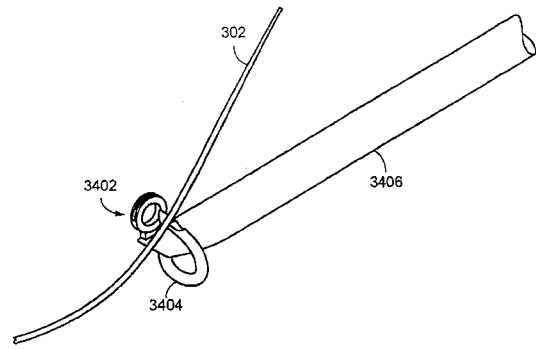
【図 33】



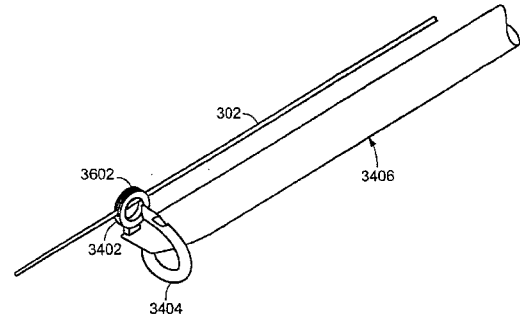
【図 3 4】



【図 3 5】



【図 3 6】



フロントページの続き

- (72)発明者 ハッチ, レアード, エル.
アメリカ合衆国、アリゾナ 8 5 3 3 1、ケイブ クリーク、ノース フィフティフィフス スト
リート 2 8 4 0 3
- (72)発明者 ガーツマン, ギャリー, エム.
アメリカ合衆国、テキサス 7 7 0 3 0、ヒューストン、サウス メイン ストリート 7 4 0 1
- (72)発明者 オーレン, ラン
イスラエル、2 5 1 3 0 ガートン、キブツ ガートン (番地なし)
- Fターム(参考) 4C160 BB01 BB15 LL28 LL59

专利名称(译)	缝合方法和设备		
公开(公告)号	JP2012101099A	公开(公告)日	2012-05-31
申请号	JP2011285880	申请日	2011-12-27
[标]申请(专利权)人(译)	邻蒿生物有限公司公司		
申请(专利权)人(译)	邻蒿生物有限公司公司		
[标]发明人	スキーバジェフリーピー ボールドウィンジェフリーピー ハッチレアードエル ガーツマンギャリーエム オーレンラン		
发明人	スキーバ,ジェフリー,ピー. ボールドウィン,ジェフリー,ピー. ハッチ,レアード,エル. ガーツマン,ギャリー,エム. オーレン,ラン		
IPC分类号	A61B17/06 A61B17/56 A61B17/04		
CPC分类号	A61B17/06109 A61B17/0469 A61B17/06061 A61B17/06066 A61B2017/06009 A61B2017/06019 A61B2017/06042 A61B2017/06047 A61B2017/06076 A61B2017/0608 A61B2017/061		
FI分类号	A61B17/06.310 A61B17/56 A61B17/04 A61B17/06.510		
F-TERM分类号	4C160/BB01 4C160/BB15 4C160/LL28 4C160/LL59		
优先权	09/550975 2000-04-18 US		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

提供了一种用于缝合的新的有用的装置和方法。这些装置和方法对于腹腔镜，关节镜和/或开放式外科手术特别有用。 解决方案：缝合线可释放地连接到缝合装置100，以便缝合装置的尖端106和缝合线的一部分穿透组织，然后从缝合装置中释放缝合线，从而缝合缝合线。可以通过组织抽出缝合线以完成手术。缝合装置设置有手柄102，该手柄102具有带尖锐尖端的细长手柄，该尖锐尖端构造造成将缝线保持在缝线上的特定位置。提供另一种类型的装置，其具有用于将缝合线附接到装置的新的和有用的结构和方法。根据另一方面，提供了不同形状的缝合装置尖端，用于为期望的应用选择最有效的尖端形状。 [选型图]图1

